



# 新日鐵住金

株 主 の 皆 様 へ

## 2016

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたびは、当社グループの経営方針や経営の概況をお伝えいたしたく、本冊子をお届けいたしますので、ご高覧賜りたく存じます。

今後も当社グループへの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

世界の鉄へ しんにってつすみきん

2016年2月  
新日鐵住金株式会社



大分製鐵所

# 株主の皆様へ

株主の皆様の日ごろのご理解とご支援に、  
心から御礼申し上げます。

## 当社を取り巻く環境

昨年の経済につきましては、原油価格が大幅に下落・低迷し、また中国経済の減速が鮮明となりました。原油価格の下落は、エネルギー分野の活動停滞につながり、一次産品価格の下落も相まって資源輸出国経済の低迷を招くこととなりました。また中国経済の減速は、中国国内需要の減退はもとより、ASEANをはじめとする新興国経済にも影を落とすこととなりました。

こうした環境変化は、当初想定した以上に早く、大きなインパクトをもって起こりました。世界鉄鋼業は近年稀にみる厳しい局面に突入し、これは当面続くと見なければなりません。中国の鉄鋼需要が減少に転じたことに伴い、世界全体の鉄鋼需要の伸びは鈍化しました。特に、世界で7億トンとも言われる過剰能力のおよそ半分を占める中国において、過剰生産と過剰輸出が継続しており、世界の鋼材需給バランスが悪化しています。鋼材市況は急速に悪化し、昨年末に反転の兆しは見られたものの、過剰能力の解消には時間を要すると考えられることから、足下の極めて厳しい競争環境が継続することが想定されます。また輸入先各国は、相次いでアンチダンピング提訴やセーフガード措置を発動しており、世界中で保護貿易措置の動きが進んでいます。一方、供給面では、高級鋼分野における競合の拡大、中国やベトナムでの新高炉火入れ等による、さらなる生産能力の拡大が進み、アジアにおける鉄鋼マーケットの先行きは大変不透明なものとなっています。



## 当社の歩み

このような厳しい環境の中、当社については、経営統合から丸3年が経過し、統合効果が着実に発揮されています。2013年に策定した中期経営計画は、2014年度にその目標の多くを達成し、昨年3月には「技術」「コスト」「グローバル」を競争優位性の柱に、国内事業と海外事業を両輪として成長を目指す「2017年中期経営計画」をスタートさせました。

海外の下工程事業会社の生産能力については、新たな事業の立ち上げにより、昨年までの2年間でおおよそ2倍となる年間1,900万トンへと拡大しました。

## 今後に向けて

鉄鋼業を取り巻く環境が急激に悪化し、世界鉄鋼メーカーの多くが赤字に陥る中、当社は、決して満足

できる水準ではないものの、相対的に競合他社に対してまだ優位な収益状況を保っています。将来的・長期的には世界の経済・産業の発展とともに鉄鋼需要は着実に増加し、当社が得意とするハイ・ミドルグレード鋼の需要拡大も見込まれます。この将来を見据えた上で、現下の極めて厳しい環境に堂々と対峙し、課題に果敢に挑みつつ、しっかりと地歩を固めてまいります。

### コスト改善策・設備構造対策の実行

これまでに計画してきたコスト改善策や設備構造対策を着実に実行し、その効果を最大限に発揮することに加えて、現下の環境を踏まえた一層のコスト削減等、さらなる競争力強化・財務体質の改善に取り組みます。

### 国内事業と海外事業の推進・強化

国内事業は、統合効果を一層発揮させていくとともに、「設備」と「人」へ重点的に経営資源を投入することによりマザーミルとしての製造実力を強化します。

一方、海外事業については、競合他社に先駆けて世界的供給ネットワークを構築してきたという当社の強みを早期かつ最大限に発揮します。

### 技術力の強化

これまで鍛え上げてきた技術力をさらに強化していきます。お客様のニーズを丁寧に把握し、きめ細かく対応するための商品開発やプロセス開発の積み重ねが当社の競争優位性の根幹であり、引き続き製造・販売・技術・研究の連携の下、技術開発を進めます。一方、世界の技術の進歩は目覚ましく、いつ従来型の発想の抜本的な転換を迫られることになるかわかりません。世界の最新技術動向や他素材の動向にもよく目を配りながら、画期的な新商品開発や革新的なプロセス開発等の技術革新に向けて、優先順位を明確にしつつ、グループを挙げて技術開発を加速します。

### グループ総合力の底上げ

経営統合という我々のアドバンテージを最大限に活用し、新日鐵住金グループ全体の実力をさらに底上げ

します。またグループ会社の統合も進んだことから、これからは各社がその統合効果を発揮する段階となりました。グループ一丸となって早期にこうした統合効果を最大限に発揮します。



### 今年度の業績見通しと 当期末の配当方針について

今年度の連結業績につきましては、極めて厳しい経営環境により、当社としては最大限の経営努力を継続するものの、連結経常利益は第2四半期決算発表時(2015年10月29日)公表の2,500億円から500億円減益の2,000億円となる見通しです。

当期末の剰余金の配当につきましては、当期の業績見通し等を踏まえ、1株につき15円(昨年10月1日の株式併合を踏まえて中間配当を換算した場合、年間配当金としては1株につき45円、連結配当性向30%)とさせていただく予定といたします(詳しくは、3頁「業績概況 2016年2月1日公表」をご参照ください)。

当社は、上記の方針に基づき着実に諸施策を推進し、収益確保に努めてまいります。

株主の皆様には、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

進藤 孝生

# 業績概況

2016年2月1日公表

## 2015年度決算見通しおよび当期末配当方針について

### ● 事業環境について

世界経済は、米国は堅調を維持、欧州は緩やかな回復が続いていますが、中国の減速感が明らかになり、アセアン諸国も停滞するなど、全体として成長が鈍化し、緩やかなものにとどまりました。

日本経済は、個人消費が伸び悩み、設備投資への慎重姿勢もあり、回復が遅れています。

国内鉄鋼需要は設備投資の伸び悩み等により、弱含みで推移しました。

海外鉄鋼需要については、中国の減速に加えアセアン諸国においても停滞しました。中国においては、内需減に伴い輸出拡大が継続しており(図1参照)、国際鉄鋼市況は急速に下落、年末にかけてわずかに反転の兆しを見せたものの、低迷を続けています(図2参照)。

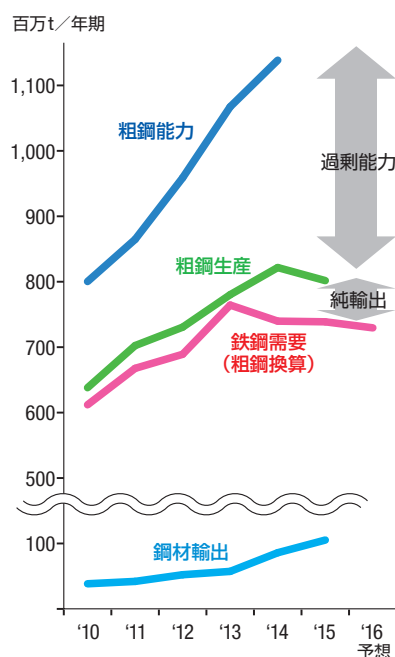
### ● 当期決算見通しについて

このような環境下、最大限の経営努力を継続しておりますが、海外市場環境の悪化による数量・価格面でのマイナス影響や、エネルギー向け鋼材需要の低迷、およびグループ会社での業績悪化影響が大きく、2015年度の業績は、連結経常利益は2,000億円、連結当期純利益は1,400億円を見込んでおり、前年度から減収減益となる見通しです(表参照)。

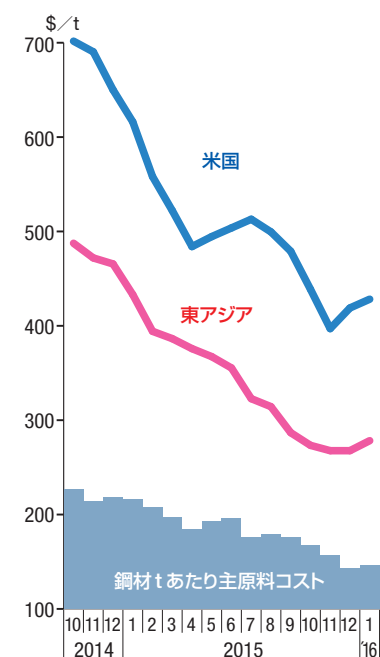
### ● 当期末の配当方針について

当社は、業績に応じた利益の配分(連結配当性向年間20~30%程度)を基本に、企業価値向上に向けた投資資金所要・先行きの業績見通し・財務体質等を考慮しつつ、剰余金の配当を実施する方針としております。当期末の剰余金の配

【図1】中国の鉄鋼需要・生産・能力の推移



【図2】海外熱延市況推移



### 2015年度決算見通し

単位：億円

	2014年度	2015年度見通し (対2014年度)	
売上高	56,100	49,700	(- 6,400)
連結経常利益 ROS	4,517 8.1%	2,000 4.0%	(- 2,517) (- 4.0%)
当期純利益	2,142	1,400	(- 742)
単独粗鋼生産量(万t)	4,496	4,240	(- 256)
為替レート(円/\$)	109	121	(12円安)

当社は、上記方針に従い、1株につき15円(昨年10月1日の株式併合を踏まえて中間配当を換算した場合、年間配当金と

しては1株につき45円：連結配当性向30%)とさせていただきますといたしました。

### IRカレンダー

2016年4月下旬	2015年度(平成28年3月期)決算発表および期末剰余金配当のご提案
2016年6月上旬	第92回 定時株主総会招集通知のご送付
2016年6月下旬	第92回 定時株主総会

## 1) 日新製鋼の子会社化等の検討開始

2月1日、当社と日新製鋼(株)は、2017年3月を目途に、当社が日新製鋼を子会社化すること、およびこれを前提に当社が日新製鋼に鋼片を継続的に供給することについて検討を開始する旨の覚書を取り交わしました。

各々の経営資源を持ち寄り、相乗効果を創出することで競争力を高め、新たに日新製鋼を加えた新日鐵住金グループとして「総合力世界No.1の鉄鋼メーカー」の地位を強化し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図ってまいります。



当社 進藤社長(左)と日新製鋼(株) 三喜社長



- 世界トップレベルの技術先進性・商品対応力
- 鉄源を中心としたコスト競争力
- グローバル対応力

需要家のニーズに即したきめ細かな開発営業等による顧客・市場対応力



詳しくは、以下のウェブサイトからご覧ください。  
<http://www.nssmc.com/news/index.html>

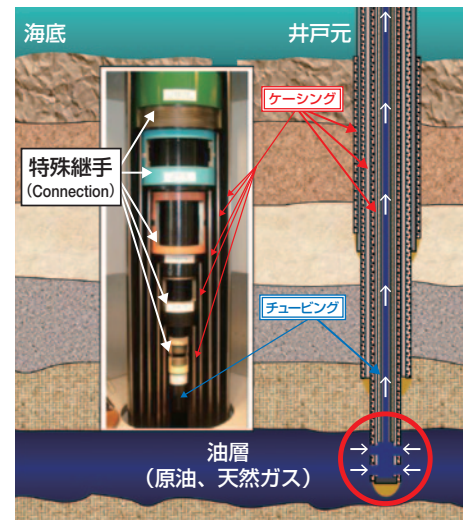
## 2) バローレック社(仏)との戦略的提携の拡大

2月1日、当社は、鋼管事業での重要なパートナーであるバローレック社との間で、事業連携の深化を主体とする戦略的提携の拡大について合意しました。

バローレック社は、フランスに本社を置き、欧州・ブラジルなどグローバルな製造拠点を持つ、油井管用シームレスパイプのリーディングカンパニーです。当社と同社が共同開発しているシームレスパイプの特殊継手「VAM®」は、高い性能を持つとともに、世界46か国に200箇所以上の継手加工・リペアショップ網があり、顧客であるオイルメジャー等からも高い評価を得ています。

当社は40年前からVAM®の共同研究で同社と連携してきましたが、今回、VAM®の協業範囲等の拡大、ブラジルにおける共同シームレス鋼管事業の強化、同社への出資拡大を通じた戦略的提携の拡大を図り、原油価格の低迷による厳しい環境下でもそれぞれの収益力を維持・向上できる事業体質を構築してまいります。

油井・ガス井の構造



詳しくは、以下のウェブサイトからご覧ください。  
<http://www.nssmc.com/news/index.html>

## 3) 自己株式取得の決定

2月1日の取締役会において、下記の通り自己株式の取得を決議しました。

取得する株式の種類	当社普通株式
取得する株式の総数	40,000,000株(上限)
株式取得価額の総額	1,000億円(上限)
取得する期間	平成28年2月2日から平成28年6月7日まで

# 環境経営への取組み ～新日鐵住金の『3つのエコ』

特集

昨年12月10～12日、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2015」が開催されました。当社は同展示会に第1回から17回連続で参加しています。3つのエコ(エコプロダクツ<sup>®</sup>、エコプロセス、エコソリューション)のキーワードに沿って、今回出展した当社グループの取組アイテム35点の中から、いくつかをご紹介します。

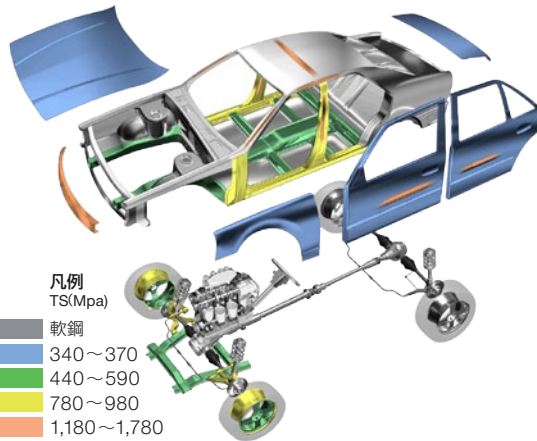


## 1. エコプロダクツ<sup>®</sup>

自動車や家電などの最終製品に組み込むことによって、使用される段階でのCO<sub>2</sub>削減や環境負荷軽減に貢献する、高性能の製品を開発・提供しています。

### 自動車用ハイテン —— 「軽くても 安全確保 強い鉄」

燃費向上が求められている自動車にとって、車体の軽量化は大きな課題です。しかも車体を軽量化しながら、同時に衝突時の乗員の安全性を確保しなければなりません。自動車用ハイテンはこの両立の難しい二つの課題を解決できる鋼材です。当社は、強さに加えて加工のしやすさにも優れた自動車用ハイテンを世界に先駆けて開発・実用化し、地球温暖化防止に貢献しています。



ハイテンの代表的な適用事例

落下衝撃試験 (中の2本がハイテン)



270MPa 590MPa 980MPa 試験前

### ユクリッド<sup>®</sup> —— 「シカの道 行き着く先は、テツでした」

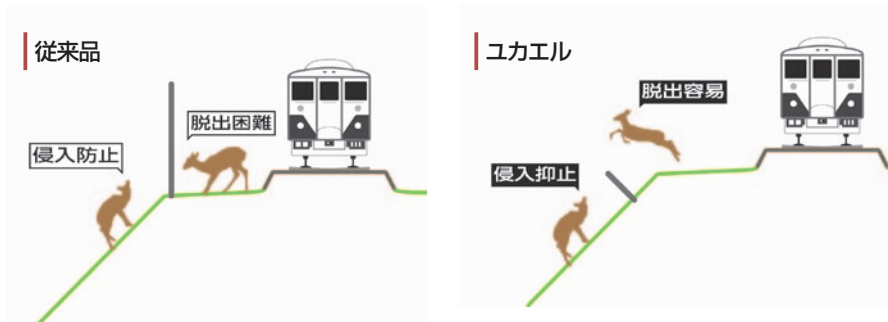
シカと列車の衝突は年間5千件も発生していますが、日鐵住金建材では「シカはレールの鉄分を舐めるために線路に入ってくる」という新事実を突き止め、画期的なシカ対策システム「ユクリッド<sup>®</sup>」を開発しました。鉄分による誘因作用でシカを誘導する誘鹿材「ユクル<sup>®</sup>」と、侵入しにくい、脱出することは容易な侵入抑止柵「ユカエル<sup>®</sup>」の適切な配置によって、農業、林業および鉄道におけるシカ被害を低減します。



線路をなめるシカ



誘鹿材「ユクル」



侵入抑止柵「ユカエル」



## 2. エコプロセス

生産工程や製品輸送等の事業活動の全段階において、環境保全、資源・エネルギー効率の向上、社内外の廃棄物の削減とリサイクルの促進を目指しています。

### プラスチックリサイクル —— 「廃プラを 製鉄技術で リサイクル」

当社は、容器包装プラスチックを一般家庭から回収し、コークス炉を使った熱分解によって油やガスを生み出し、再びプラスチック原材料等に戻すなどほぼ全量有効活用しています。現在全国7箇所の

製鉄所でリサイクルしており、そのシェアは日本全国の容器包装プラスチック収集量の約3割にも及び、単一企業での受入規模としては世界最大級です。



回収された廃プラスチック



廃プラスチックの造粒物



コークス炉



樹脂ペレット  
(プラスチック原材料)



## 3. エコソリューション

これまで培った環境保全・省資源・省エネルギーに役立つ技術や環境マネジメントシステムを国内外に提案し、環境負荷の低減はもとより、自然や景観に配慮した災害防止のための社会資本整備、さらには技術移転を通じた海外の環境問題の解決に貢献しています。

### 水素ステーション —— 「水素のちからで 未来の生活 つくります」



水素ステーション

東京ガス株式会社ホームページから引用



HRX19<sup>®</sup>

環境にやさしい水素で走る燃料電池自動車の普及のためには、水素ステーションなどのインフラ整備が欠かせません。当社と日鉄住金ステンレス鋼管(株)は、耐水素脆性に優れ高強度の高圧水素用ステンレス鋼「HRX19<sup>®</sup>」を開発し、水素ステーション配管の長寿命化・安全性向上・軽量化を実現しています。

### ビバリー<sup>®</sup>・ユニット —— 「元気ない 海に活力 鉄分サプリ」

コンブやワカメなどの海藻類が失われて海が不毛の状態となる「磯焼け現象」が日本各地の海岸約5千kmにわたって起きています。当社のビバリー<sup>®</sup>・ユニットは、海藻類の生育に必要な鉄分を海に供給する「海のサプリメント」です。鉄分を豊富に含む鉄鋼スラグと間伐材などを発酵させた人工腐植土を混ぜて作り、海底に沈めるなどして、海に鉄分を供給し、豊かな海の森づくりに役立っています。



磯焼けした海底



再生したコンブの群生

# 新日鐵住金グループ企業理念

## 基本理念

新日鐵住金グループは、常に世界最高の技術とものづくりの力を追求し、優れた製品・サービスの提供を通じて、社会の発展に貢献します。

## 経営理念

1. 信用・信頼を大切にせるグループであり続けます。
2. 社会に役立つ製品・サービスを提供し、お客様とともに発展します。
3. 常に世界最高の技術とものづくりの力を追求します。
4. 変化を先取りし、自らの変革に努め、さらなる進歩を目指して挑戦します。
5. 人を育て活かし、活力溢れるグループを築きます。

## 株主様へのご優待について

当社は、株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社グループの活動に関するご理解をより深めていただくことを目的として株主優待制度を導入しております。

詳細につきましては、対象の株主様に別途ご案内申し上げます。

### ●見学会・説明会

項目	内容	ご案内回数(実施時期)	ご案内対象
工場見学会への招待(抽選)	製鉄所・製造所の見学に招待いたします。	年2回ご案内 (3~4月頃、10~11月頃)	毎年3月末・9月末において 1,000株以上保有の株主様
経営概況説明会への招待(抽選)	東京・大阪をはじめ、各地で開催いたします。	年2回ご案内 (7~9月頃、2~3月頃)	

### ●各種優待

項目	内容	ご案内回数(実施時期)	ご案内対象
当社カレンダーの送付	当社カレンダーを送付いたします。	年1回ご送付 (11月下旬~12月上旬)	毎年9月末において 500株以上保有の株主様
鹿島アントラーズ 観戦招待(抽選)	J1リーグ戦(ホームゲーム又は アウェイゲーム)に招待いたします。	年2回ご案内 (4~8月頃、8~12月頃)	毎年3月末・ 9月末において 5,000株以上 保有の株主様
紀尾井ホール 演奏会への招待(抽選)	紀尾井シンフォニエッタ東京の 定期演奏会をはじめとした 各種演奏会に招待いたします。	年2回ご案内 (3~7月頃、9~2月頃)	

## 株式に関する手続き

項目	内容
株主名簿管理人事務取扱所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (電話照会先) 当社株主様専用ダイヤル 0120-785-401(フリーダイヤル) 株主名簿管理人代表電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
住所変更、単元未満株式の 買取り・買増しのお申出先	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 (証券会社の口座で株式を管理していらっしゃらない場合は、三井住友信託銀行にお申出ください。)
未払配当金の支払いお申出先	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。